

日本の展望委員会・人文社会科学作業分科会 第2回会議要旨

日時：平成20年11月11日（火）13:00～15:00

場所：日本学術会議5階 5-A（1）会議室

出席者： 広渡、佐藤、柴田、前田、秋山、今田、桜井、油井、淡路、大沢
（事務局） 廣田、川上、藤本、高橋
渡辺、井上、大西、中島

欠席者： 江原、小林、平松、木村、山本

議題：

1・前回議事録の確認

前回の議事録が配布され議事内容が確認された。

2・日本の展望委員会からの報告

- ① 委員会の概要、テーマ別分科会におけるテーマの概要と委員長、今後の進め方について（改訂案）について紹介があった。
- ② テーマ別分科会の「現代社会における教養・教養教育—21世紀のリベラルアーツの創造」について、文部科学省からの審議依頼とその経緯の説明があった。

3・各分野別委員会の作業状況

各分野別の委員から作業報告があった。

- ① 分科会方式で議論して報告書を作成する方向である旨の発言が多くあった。
- ② 分野ごとのポイントとなるテーマが出され意見交換がなされた。
具体的には、1) ポスドクの就職問題の基礎データを蒐集すること、2) 若手研究者の支援、3) リベラルアーツや文理融合アプローチ、3) 学協会とのコンタクトなどである。
- ③ テーマ別委員会との関連について議論がなされたが、有機的連携を図るのは時期的に困難であるとの見解が示された。

4・今後の取り組みの留意点と作業スケジュール

- ① 人文社会科学のメンバーが国際的な科学共同体の役員やメンバーとなることを主張すべきとの意見が提出された。
- ② 国際的組織へ人文社会科学の分野が積極的参加を促進すべきとの意見が提出された。国際活動の在り方、連携プロジェクトの在り方について議論がなされた。
- ③ 住みよい社会へ向けた社会的ニーズと学問の社会的役割について議論された。
- ④ 報告書作成のスケジュールについて議論がなされ、以下3点が確認された。
 - 1) 2009年3月末までに論点整理的な中間報告をおこなう
 - 2) 2009年7月末に作業分科会への報告書（外部に発表可能な形式のもの）を提出する
 - 3) 分量はA4用紙15・20枚（38字×40行）を目安とする

5・次回日程

次回分科会を平成21年2月6日15:00からおこなうこととした。